

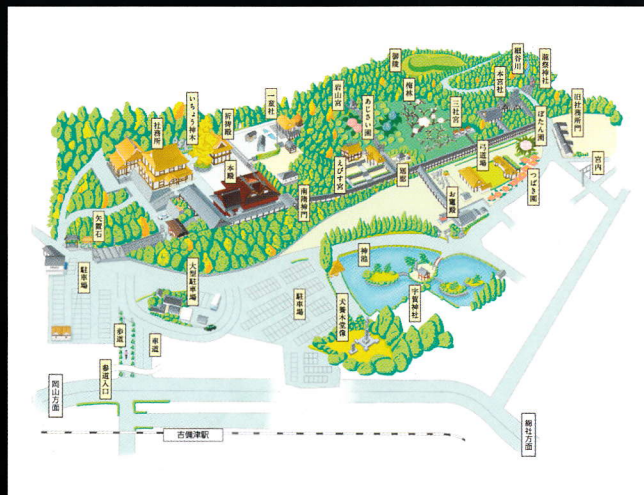


三備一宮

# 吉備津神社

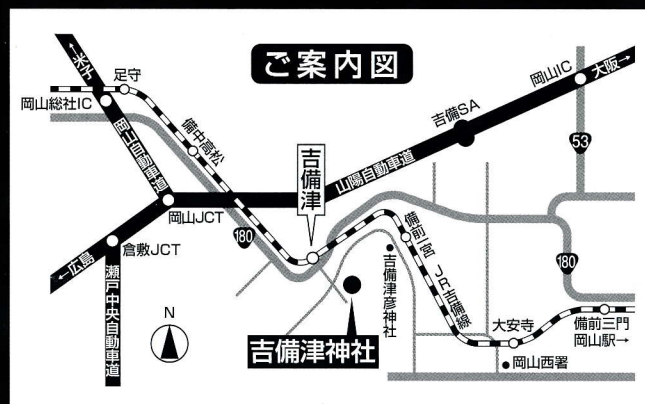


## ◆◆◆ 吉備津神社境内図 ◆◆◆



### 交通アクセス

《JR》JR吉備線 吉備津駅下車 徒歩15分  
《バス》中鉄バス 吉備津神社参道口下車 徒歩10分



吉備津神社々務所

住所 岡山市吉備津931

TEL 086-287-4111

URL <http://www.kibitujinja.com/>



# 御祭神

大吉備津彦大神並に

配祀八柱の神

## 一、由緒

御祭神は第七代孝靈天皇の皇子にましまし、第十代崇神天皇の御代に吉備の国に下られ、温羅と云う悪者を平らげて平和と秩序をきづき、この地に宮をいとなまれて吉備の国の

人々のために仁政を行い給い、長寿を以てこの地に薨去せられました。社伝によれば仁徳天皇が吉備の国に行幸し給うた時、御創建になったもので、延喜式の定まるや名神大社に列し、やがて一品の神階を授けられましたので一品吉備津宮、また三備(備前、備中、備後)の一の宮と称せられ、全国の人々から深く信仰せられています。

# 二、吉備津神社境内の諸建築

## 本

殿・拜殿は室町時代初期の代表的建築で「吉備津造り」と称せられ全国唯一の造りとして国宝に指定されています。また本殿から南の本宮社をつなぐ総延長約四〇〇mに及ぶ廻廊や随神をお祀りする三間二戸の八脚からなる南・北随神門は国の重要文化財に指定されています。



▼北随神門



▼廻廊

## 一、境内を彩る植物

### 春

には椿・桜・牡丹・つつじ等が境内を色鮮かに飾り、初夏には二千株近くの紫陽花が多くの見る人々を楽しませています。

また秋には本殿横の広場にそびえ立つ樹齢六百年以上の大銀杏おおいちじょうが紅葉を迎え、その落葉が広場一面を黄金色の絨毯に変えます。



▲桜



▲大銀杏



▲牡丹

# 一、主な祭暦

- ◆歳旦祭 一月一日
- ◆節分の日祭 二月三日
- ◆建国記念の日の祭 二月十一日
- ◆春季大祭 五月第二日曜
- ◆木堂祭 五月十五日
- ◆大祓式 六月三十日
- ◆夏祭り 七月三十一日
- ◆秋季大祭 十月第二日曜
- ◆大祓式・除夜祭 十二月三十一日
- ◆月旦祭 毎月一日
- ◆月次祭 毎月十三日

# 二、春・秋の大祭

## 当

社の春・秋の大祭では、七十五膳据神事と呼ばれる献饌行事を執り行います。御供殿と呼ばれる建物にて大勢の世話人が集まり神饌や奉供物を前日までを整えます。当日はそれらお供え物や神宝類を百数十人にのぼる氏子の方々が神職を先導に本殿を目指して長い長い行列となつて運び、神さまにお供えします。

春は五穀豊穡を祈念し、秋は収穫に感謝するお祭りです。



▲春季大祭



▲神饌

# 一、鳴釜神事

## 御

祭神によつて退治された鬼の首が埋められているという伝説が伝わる御釜殿にて執り行われる神事です。お釜の鳴る音によつて吉凶禍福を占う神事であり、その神秘的な霊験は少なくとも室町末期には天下に有名であり、江戸期の怪奇小説「雨月物語」にも登場します。



\*金曜以外の午前九時から午後一時までの毎日、ご奉仕致しております。但し、五月第二日曜・十月第二日曜・十二月二十八日は当社行事のためご奉仕はできません。

# 二、正月の行事

## ◆矢立の神事

正月三日午前九時半頃より当社正面入口の矢置岩という巨石の前にて、射手が空中高々と矢を放ち四方より来る災禍を祓いその年の安寧を祈ります。

## ◆吉備津三味線餅つき

餅つき保存会の方々が三味線の小気味良いリズムに合わせ賑やかに餅をつきます。ついた餅は初詣の参拝者にふるまわれます。

## ◆えびす祭り

正月の九日・十日・十一日に、恵比須・大黒二柱の神さまをお祀りするえびす宮にて熊手・箕・宝船などの縁起物を授与します。また、商売繁昌の祈禱も随時ご奉仕致します。